

令和3年度 嬉野市教育委員会 教育基本目標評価シート

嬉野っ子ワクワクデザイン令和3年(学校教育)

具体的活動	教育委員会における自己評価				
	評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
具体的施策	(1)確かな学力の育成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びを取り入れた「嬉野メソッド」の徹底を図るとともに、学びを止めない持続可能な手法を考案してその徹底を図る。</li> <li>「確かな学力育成部会」等により、学習状況調査等の各種調査の詳細な分析に基づく課題把握とその対策の充実を図る。</li> <li>「学びの習慣づくり」を改訂し、より活用できるものにして学習習慣の定着を図る。</li> <li>「GIGAスクール構想部会」を中心にタブレット端末を活用した授業の創造、オンラインによる授業の試行、各教科での活用事例の共有を目指し研究を行う。</li> <li>小学校で英語専科指導教員を活用した指導方法の研究と実践を図る。</li> <li>中学校において、「放課後等補充指導支援事業」により、基礎学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校訪問や授業研究会等において授業を参観した。「嬉野メソッド」による授業展開は確立できており、児童生徒が主体的に学ぶ姿が見られた。学校行事ではリモートによる集会、時間差での授業参観、感染対策を講じながらの体験活動等、学びを止めない工夫がなされていた。</li> <li>「確かな学力部会」において、10月に全国学力・学習状況調査の成果と課題を把握し、対策を考え共通理解を図った。</li> <li>昨今の学習環境の変化を踏まえ、10月に「学びの習慣づくり」を改訂し、市内児童生徒の全家庭へ配付した。</li> <li>7月の1回目の部会で、オンライン授業を実践した学校の事例を共有した。各学校でタブレットの活用が進んでおり、1月末の2回目の部会で活用事例について情報共有をする。</li> <li>小学校の英語専科指導教員、英語活動推進員、中学校の英語担当教員を対象に、7月に英語教育に係る研修会を実施した。双方の授業内容や指導方法について意見交換をしたり情報共有をしたりすることができた。</li> <li>市内4中学校で、「放課後等補充指導支援事業」を活用し、英語と数学の指導を年間340時間、実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の設定や対話活動の充実に工夫がなされているが、個人差があり、全職員での取り組みが課題である。また、未来を見据えて、学びを止めない持続可能な指導方法を考案していくことも必要である。</li> <li>共通理解したことを、各学校で実践し結果につなげることが課題である。</li> <li>「学びの習慣づくり」の活用方法が課題である。</li> <li>学校によって活用の温度差がある。また、Wi-Fiへの接続状況がよくないことも活用を妨げている要因になっている。</li> <li>小学校の英語専科指導教員、英語活動推進員、中学校の英語担当教員の連携を図り、英語教育の推進を図る。</li> <li>12月の県の学習状況調査において結果にどう反映しているか分析し、次年度の事業の実施に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校訪問や授業研究会等において、指導助言を行ったり、よい取り組みについては、校長会や部会で紹介することで広めていく。</li> <li>「確かな学習部会」において、PDCAサイクルにそって、課題と対策の共通理解から共通実践への取り組みがどうなされたか、振り返り、次の実践につなげるようにする。</li> <li>各中学校区の「ろく・さんプラン部会」と連携し、生活習慣や学習習慣の定着のための取り組みに活用する。</li> <li>来年度もGIGAスクール構想部会で、活用事例を共有したり、県教委主催の研修会への積極的参加を促したりする。Wi-Fi環境の改善もすすめて行く。</li> <li>小学校の英語専科指導教員、英語活動推進員、中学校の英語担当教員を対象に、小中のなめらかな接続や指導方法についての研修会を開く。</li> <li>12月の県の学習状況調査結果分析をもとに、次年度の事業の実施に生かす。</li> </ul>
	(2)豊かな心の教育推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>嬉野市副読本「生きる力」の教科書(三訂版)を活用し、インターネットやSNSについて、その功罪の理解を図る。</li> <li>コロナ禍における「新しい生活様式」の中で、「嬉野学」の学習を展開する方法を模索しながら、継続して嬉野市を愛する心を育てる。</li> <li>文化芸術等の巡回公演事業を積極的に誘致して、優れた文化・芸術に直接触れさせることにより、豊かな心の育成を図る。</li> <li>持続可能な教育活動(SDGs)の理念の周知を図り、学校での実践を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>嬉野市副読本「生きる力」の教科書(三訂版)の資料を活用し、SNS等の功罪を各校で計画的に学ぶことができた。</li> <li>豊かな心の教育推進部会で、コロナ禍において学びを止めないための「嬉野学」の実践事例を①情報収集②地域との交流活動③情報発信の3点について紙面で情報共有した。各学校の工夫を凝らした活動を知ることができ有益な情報交換ができた。</li> <li>文化芸術事業は、令和2年度予算の2公演を含め9公演を開催することができた。オペラ、人形劇、ミュージカル、交響楽団演奏など本物の芸術を鑑賞・体験し、児童生徒に好評であった。</li> <li>SDGsについて各校ごとに工夫した取り組みがなされ、児童生徒の学びが広がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で指導時数の確保が今までよりも困難であり、時間の確保には課題が残る。また、保護者への啓発が課題である。</li> <li>来年度もコロナ禍の現状は続くと考えられる。コロナ禍でも行える「嬉野学」を検討しなければいけない。</li> <li>コロナ禍の影響で出演者との交流に制限はあった。</li> <li>SDGsを学びを深めたいが、コロナ禍で外部の方との交流に制限がかかる場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍での指導時数の確保の在り方を検討したり、保護者と共に学ぶ場を設定するなど、学校独自の取り組みを工夫したりする。</li> <li>今年度共有できた情報を、各学校に周知し、来年度の「嬉野学」の年間計画を立てるときの参考するよう促す。</li> <li>SDGsについて、児童生徒がさらに積極的に取り組めるような工夫を進めていきたい。</li> </ul>
	(3)たくましい心身の育成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>県教委主催による「スポーツチャレンジ」に積極的に参加し、児童の運動に対する意欲と体力を高める。</li> <li>学校、家庭、地域が連携して、望ましい食習慣を身につけさせるための指導を充実させ、朝食摂取率100%を目指す。</li> <li>SSW、教育相談員、適応指導教室支援員、別室における学校生活支援員等と学校の連携により不登校児童生徒の未然防止や学校復帰に向けた取組を強化する。</li> <li>コロナ禍における「新しい生活様式」の定着を図り、感染しない・感染させないための意識の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内小学校全8校で「スポーツチャレンジ」に積極的に参加し体力向上を図った。どの学校も2種目以上チャレンジした。またコロナの感染対策を行いながら、「運動会」や「マラソン大会」を実施し、児童の運動に対する意欲と体力を高められた。</li> <li>地域コミュニティやJAと連携した野菜の栽培、「早寝、早起き、朝ご飯」チェックシートを活用して家庭と連携した食育指導、栄養教諭による食育指導など年間を通して食育指導が行えた。</li> <li>SSW、教育相談員、適応指導教室支援員、別室における学校生活支援員等や学校との連絡を密に行い、不登校児童生徒の学校復帰に向けた取組を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度もコロナの状況は続くと思われる。感染対策をしながらスポーツチャレンジや体育的行事の実施を検討していく必要がある。</li> <li>朝食摂取率100%を達成できなかった学校があった。</li> <li>中学校の不登校者が増加傾向にある。新規の不登校を生み出さないための早期対応の取組が必要でなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に対する取組を学校だけでなく、家庭と連携して行えるように、さがんキッズ体力アップ記録カードなどを積極的に活用を働きかける。</li> <li>朝食摂取率を高めるために、引き続き、栄養教諭と連携し、取組をすすめる。</li> <li>学校、教育相談員、SSW等と連携を密にし、不登校傾向児童生徒の情報共有や早期対応を行う。</li> </ul>
	(4)特別支援教育等の推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザインを踏まえた教育環境を作り、インクルーシブ教育を推進する。</li> <li>市雇用の早期支援コーディネーターを活用し、幼児期からの教育相談や就学相談を行うことにより、本人・保護者に十分な情報を提供するとともに、関係機関との連携、幼稚園・保育園と学校及び子育て未来課との連携を密にし、児童生徒の適切で滑らかな就学や進学を目指す。</li> <li>「特別支援教育部会」等において、特別支援教育に関する研修を行い、特別支援教育コーディネーターを核に教職員の理解を深め、指導力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの学校で教室の前面掲示をなくし、各教室の掲示物を統一するなど視覚情報を抑えすっきりした教室環境づくりに取り組んでいる。</li> <li>早期支援コーディネーターが、定期的に市内の幼、保、認定こども園を訪問し、幼児の観察、保育者や保護者への支援の助言などを行っている。必要に応じて、関係機関や就学相談や子育て相談会へつなぎ、保護者の思いに寄り添いながら、療育や就学をすすめることができた。</li> <li>「特別支援教育部会」において、各学校の特別支援教育コーディネーターを対象に、教育課程や個別の支援計画等についての研修を行った。研修内容を校長会で報告し、各学校での周知を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの視点で、だれにとっても学びやすい環境づくりに取り組む必要がある。</li> <li>幼、保、認定こども園への適的な訪問で在園児についての支援はスムーズに行われているが、在宅児についての情報が把握しにくいいため、福祉課、子育て未来課、健康づくり課とも連携し情報共有することが必要である。</li> <li>児童生徒が抱える課題や困り感が多様化しているため、必要な指導支援を行うための職員のスキルアップを図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>だれにとっても学びやすい環境づくりや、わかりやすい授業づくりを学校全体で取り組んでもらうように、部会や学校訪問等で働きかける。</li> <li>就学前の在宅児について、福祉課、子育て未来課、健康づくり課と連携をとって必要な就学支援を行う。</li> <li>職員のスキルアップを図るために、県の「障害のある子どもの学校生活支援事業」や佐賀県療育支援センターの支援事業等の積極的な活用を推進する。</li> </ul>
	(5)校長先生の知恵袋事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長先生の学校マネジメント力の向上を図り、学力向上や体験活動の充実に向けた、特色ある学校教育の推進を図る。</li> <li>創意工夫を生かした学習や生徒の興味、関心に基づく学習や体験活動を通して、学力向上や豊かな心の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画にそった活動が実施され、特色ある学校教育の推進を図ることができ、校長のマネジメント力の向上につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長のマネジメント力を生かし、コロナ禍でもできることを探り、児童生徒の学力向上や豊かな心の育成につながる活動を工夫して行うことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長のマネジメントとして、本事業の目的に沿ったものであり、自校の児童生徒にとって必要なものを見極めて行うように、4月当初に、計画の見直しがないかどうか再確認を行う。</li> </ul>
(6)ろく・さんプラン教育推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>各中学校区において「ろく・さんプラン(フォーステップ4年目)」を実践し、9年間を見通した指導方法の改善や学力の定着を図る。</li> <li>嬉野中学校区において、佐賀県教育委員会指定の小中連携学力向上事業に取り組み、授業公開などを通して、学力向上に向けた実践や指導方法を共有する。</li> <li>学校生活において、小学校から中学校へ滑らかな接続ができるよう、「小中合同研修会」や「春休みの課題の工夫」など、学びの連続性を確立する。</li> <li>ノーテレビデーの同日実施など、一貫性・統一性を持った指導の在り方を研究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各中学校区で、「ろく・さんプラン(フォーステップ4年目)」に沿って学習習慣・生活習慣・教科指導など、テーマ別で小中合同の研修会が実施された。</li> <li>嬉野中学校区では、各学校の公開授業に小中の教員が参加し、相互に意見交換がなされた。また、11月19日(金)の嬉野小学校の公開授業研究会では、大妻女子大学准教授樺山敏郎先生による講演会が実施された。</li> <li>「確かな学習部会」で、小学校6年生への「春休みの課題」を3月に配付する準備をしている。</li> <li>各中学校区で、「ノーテレビ・ノーゲームデー」や「家庭学習強化週間」の同日実施など、一貫性・統一性のある取り組みが行われた。小中学校同日での実施によって、家庭と連携した取り組みができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度がまとめの年であり、各中学校区での取組は計画的に実施され、成果も出ている。2022年度から取り組む、次の3年間を見通した「ろく・さんプラン計画」の作成が課題である。</li> <li>嬉野中学校区の県の指定事業は今年度で終わるが、学力向上に向けた実践や指導方法を今後も共有していくことが課題である。</li> <li>今後も、各中学校区で一貫性・統一性のある取り組みを行うことで、9年間を見据えた教育を遂行していくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各中学校区で2022年度から3年間を見据えた「ろく・さんプラン計画」を作成し、「ろく・さんプラン部会」を軸として実施するよう働きかける。</li> <li>各中学校区で小中相互の授業参観や公開授業研究会への参加を働きかける。</li> <li>各中学校区の「ろく・さんプラン部会」を軸として一貫性・統一性のある取り組みを行うよう、引き続き働きかける。</li> </ul>	

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(段階)
<p>(1)コロナ禍や予算面など厳しい状況の下、ソフト・ハード面共に、その対応が迅速でスムーズであることを高く評価する。</p> <p>(2)市雇用の早期支援コーディネーターの活用については、子ども支援や幼保小連携、保護者の子育て支援等にも成果を上げており、素晴らしいと評価する。</p> <p>(3)最近の事件、反社会的事案等を聞くたびに、「心の教育」を痛感する。嬉野市副読本「生きる力」の活用等とおして、「豊かな、たくましい心」をもつ子どもに育てほしい。</p> <p>(4)「嬉野メソッド」の取り組みについての個人差をどう改善していくか、先生たちの「学びの場」の確保等が課題であろう。</p> <p>(5)日々尽力されている先生方、コロナ禍対応も重なり、さらにその負担が増えていると思う。働き方改革に取り組み、先生が一人で抱え込むことなくチームワークよく組織で対応するなど、先生方の心身の健康維持・促進に取り組んでほしい。</p>	A

指摘を受けての改善点
<p>(3)嬉野市では幸にも児童生徒が関わる大きな事件や反社会的事案等は発生していないが、そのような事案の未然防止のためには、心の教育は欠かせない。そのため学校教育では、週1回、特別の教科「道徳」を行っている。特別の教科「道徳」では、様々な教材を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養っている。また副読本「生きる力」の教科書を通して、SNS問題、恐喝、薬物乱用等、世の中で起こりうる多くの問題について学び、対処法についても考えさせている。今後も道徳や生きる力だけでなく、学校教育全体を通して、心の教育を充実させたいと考えている。</p> <p>(4)各学校の学力向上コーディネーターが核となり、年度当初に、「嬉野メソッド」の指導過程を職員へ周知したり、校内研究や授業研究会等で「学びの場」を確保したりするように、働きかける。</p> <p>(5)コロナ禍のため、今までは無かった感染症対策により負担が増えていると思われる。養護教諭など1部の職員で負担を抱えることが無いように、校長を中心にワンチームでコロナ対応を行えるようにしたい。また若手の教員が増加傾向にあるので、定期的職員会議以外に、日頃抱えている問題について、意見交換ができる場を設定したい。心身の健康に関しては、きついつきに、「きついつい」ということが言えたり、「年休を取る」ということが言えたりしやすい雰囲気、環境づくりをしていく必要がある。</p>

	A 達成(80%以上)
	B ほぼ達成(51~79%)
	C やや不十分(50~21%)
	D 不十分(20%以下)